三　郷　町
インクルーシブ
アクション
プラン

～ 人とつながるまち ～

三郷町

2024年3月

はじめに

「インクルーシブ」とは、英語で「包摂（ほうせつ）的な」「包括的な」「すべてを包み込む」を意味する言葉です。

かつては、地域の相互扶助や家族同士の助け合いにより人々の暮らしが支えられ、世帯の状況や変化に周囲が気付き、支えるという人間関係が身近にありました。しかしながら、近年では、急速な人口減少や核家族化、少子高齢化が進むとともに、さまざまな分野の課題が複雑に絡み合い、個人のみならず、世帯単位で複合的な支援が必要とされる状況がみられます。

地域における多様な支援ニーズに公的支援が的確に対応していくためには、個人・世帯の抱える特定の課題に対応するだけでなく、地域の実情に応じて、高齢や障がい等、課題の分野を跨ぎ総合的な支援を提供していくことが必要となっています。

本町においては、令和４年（2022 年）３月に「重層的支援体制整備事業実施計画」を策定し、各部署・機関相互の連携を推進する事で、地域のさまざまな課題等の解決に取り組み、そして包括的につながり続ける支援体制を目指し、事業を進めてまいりました。

この度、これまでの取組に加え、人と人、人と社会がつながり助け合う「地域共生社会」の着実な実現に向けて、行政機関だけでなく、住民の皆さまをはじめ、関係団体・企業・事業所等、さまざまな立場の方々と共にまちづくりを進めていくため、「三郷町インクルーシブアクションプラン」を策定いたしました。

今後は、この計画に基づき、障がいの有無や国籍、年齢、性別等に関係なく、それぞれが持つ個性を、みんなが互いに尊重しながら共生できる「人とつながる」まち、“すこやか未来都市さんごう”を目指してまいります。

令和６年（2024 年）３月

三郷町長　木谷　慎一郎

もくじ

01 インクルーシブとは？ 1

02 プラン策定の経緯 2

03 プランがめざす姿 3

04 人とつながる「暮らし」プロジェクト 5

05 人とつながる「学び・育む」プロジェクト 15

06 人とつながる「活躍する・参画する」プロジェクト 21

07 人とつながる「集う・憩う」プロジェクト 25

08 計画の推進に向けて 32

09 資 料 33

01 インクルーシブとは・・・

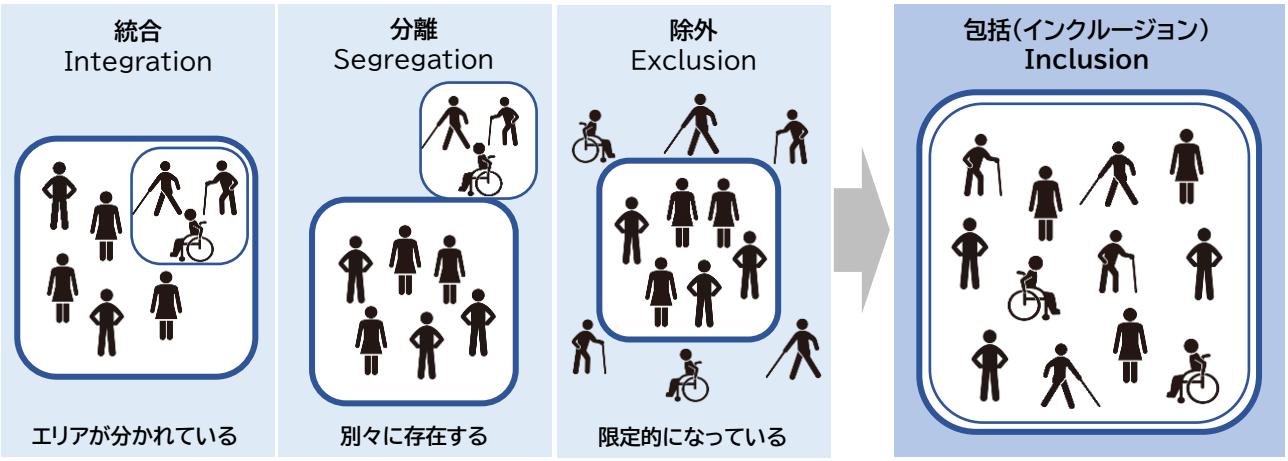
「インクルーシブ（inclusive)」は「包摂（ほうせつ）的な」「包括的な」「すべてを包み込む」を意味することばです。そして、その意味から障がいの有無や国籍、人種、年齢、性別などに関係なく認め合い共生できる、さまざまな背景を持つあらゆる人が排除されない社会が“インクルーシブ社会”と言われています。

近年では、インクルーシブの概念は、教育や防災、公園整備など、さまざまな分野で取り入れられ、インクルーシブ社会の実現に向けた取組みが進められていますが、まだまだ実現できているとは言えないのが現状です。

例えば“インクルーシブ教育”では、すべての子どもが同じ教室で学ぶことを重要視されますが、日本では「特別支援教育」という制度のもと、障がいのある児童・生徒には専門の教育・支援が提供されています。令和４（2022）年に国連の障害者権利委員会より、障がいのある子どもを分離する教育制度だとして勧告を受けているものの、手厚いサービスが受けられることや保護者からのニーズがあるため、廃止までには至っていない状況です。

また、インクルーシブ社会の実現は、「ＳＤＧｓ」の目的の１つとされています。ＳＤＧｓとは、平成 27（2015）年に国際連合で採択された「持続可能な開発目標」のことで、2030 年までに世界をよりよくするため、17 の目標が掲げられています。このなかのゴール４では「すべての人が、公平で質の高い教育を受けられる世の中を目指す」とされており、インクルーシブ教育の推進が深く関わっています。

近年では、働き方や暮らし方の多様化に伴い、人々の価値観も多様化してきています。地域には、障がいの有無だけにとどまらず、性別や年齢、外国にルーツを持つ方など、さまざまな方がともに暮らしています。こうしたことから、主にこれまで障がいのある方に向け取り組んできた“バリアフリーデザイン”や“ユニバーサルデザイン”のまちづくりに加え、これからは、すべてに人が使いやすい、インクルーシブな「もの」や「こと」を増やしていくことで、みんなが暮らしやすい社会に変えていくことが必要です。



02 プラン策定の経緯

本町では、「ＳＤＧｓ未来都市計画」を策定し、ＳＤＧｓの理念“誰一人取り残さない”社会をめざし、多様なパートナーシップによる「ＳＤＧｓ未来都市」として持続可能なまちづくりに積極的に取り組んでいます。

また、コンパクトなまちであるという本町の特性を活かし、地域ＢＷＡを活用したＬＴＥによる通信網を町全体に整備するとともに、ローカル５Ｇの高度な通信網をＦＳＳ３５キャンパスに整備することで、大学や企業の研究・実証実験の場として、最先端のデジタルテクノロジーが取り入れられ、Society5.0の象徴であるＡＩ・IoT技術を活用できるまちの整備に取り組んでいます。

一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、さまざまな地域の活動やイベント等が自粛を余儀なくされてきたなかで、地域とのつながりや人と人とのつながりについての重要性が再度認識されてきました。

このことから、本町においては、ＩＣＴを活用する「スマートシティ」に向けた整備とともに、人のぬくもりを大切にする「インクルーシブ」の２つを柱としたまちづくりに取り組んでいます。

そしてこの度、一人ひとりがインクルーシブについての理解を深め、性別や年齢、障がいの有無などでさまざまな人が区別されることなく、同じ立ち位置、同じ目線で支え合いながら、だれもが自分らしく生活できるインクルーシブなまちづくりを目的として、「三郷町インクルーシブアクションプラン」を策定するものです。

03 プランがめざす姿

「性別」「障がい者」「高齢者」「外国人」などの枠組みでカテゴライズしない、相手にどんな属性や背景があっても、まずは、その人自身を理解すること。そして、それを阻む「心の壁」を取り除き、“人”とつながるまちを目指します。

また、「めざす姿」に向けて、下記の“だれでも”、“いつでも／どこでも”、“わかりやすい”の３つを推進のキーワードとします。

だれでも	性別、性自認、年齢、障がい、国籍、言語などによる 不自由・不利益がないこと
いつでも／どこでも	さまざまな生活の状況やライフスタイル・価値観を考慮
わかりやすい	それぞれの違いを認め、わかりやすく、使いやすい

町内にはさまざまな人が暮らしています。

また、誰もが、何かしら、ともに関わり合いながら暮らしています。

「ひとりぼっち」は「自分は受け入れてもらえていない」と思った時に感じるものです。

本計画では、

４つの分野に分けたプロジェクトを進め、

暮らし　学び・育む　活躍する 参画する　集う・憩う

ともに受け入れ合うことで、

「ひとりぼっち」を生み出さない、

人と人とのつながりが実感できる、「すこやか未来都市さんごう」を目指します。

04 人とつながる「暮らし」プロジェクト

めざす姿

公共施設では・・・

バリアフリー改修が進み、
障がいの有無に関わらず、
訪れる人すべてに配慮されています。

地域では・・・

地域のつながりができて、
困ったことがあれば
地域の人たちと助け合う
関係が構築されています。

自宅では・・・

健康づくりに向けた取組みに
みんなが励んでいます。

健康維持・増進に向け
た情報が入手しやすい
環境が整っています。

オンライン化による申請や
情報提供の充実により、
来庁が難しい人への配慮がされて
います。

《住民・地域の取組み》

- ■挨拶や声かけなど、地域で顔の見える関係をつくりましょう。
- ■町内で暮らしにくい点や行きにくい場所があれば積極的に声をあげましょう。
- ■三郷町や地域に興味を持ち、積極的に情報を入手するとともに、身近な人と共有しましょう。

具体的な取組み内容

事業名	オストメイトトイレ購入	総務課
事業目標	だれもが安心して過ごせる避難所	
事業概要	避難所が開設される場合は必ずオストメイトに対応している福祉避難所が開設されますが、オストメイトに対応していない避難所にも対応できるように持ち運びが可能な組立式オストメイトを購入しています。 	

事業名	役場庁舎入口バリアフリー化等事業	まちづくり推進課
事業目標	障がい等の有無に関わらず、誰もが利用しやすい環境整備	
事業概要	役場庁舎の正面玄関及びピロティ側の入口について、バリアフリー化の工事を行っています。正面玄関については、おもいやり駐車場から正面玄関までの段差を解消し、ピロティ側の入口は、急勾配のスロープを誰でも不自由なく利用できるよう、なだらかな勾配に改修しています。 また、公用車の駐車場に、おもいやり駐車場を１台設けました。 	

事業名	ごみ出しサポート	長寿健康課・住民福祉課
事業目標	高齢者・障がい者の生活の質の向上・孤立防止	
事業概要	65 歳以上で要介護認定を受けている方、身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳の交付を受けている方で一定以上の等級の方を対象に、ごみの搬出をサポートするとともに、安否確認の声かけを行い、高齢者、障がいのある人等の身体的な負担の軽減及び安心で暮らしやすい在宅生活を支援しています。	

事業名	寄附型自動販売機設置事業	住民福祉課
事業目標	子どもの居場所づくり	
事業概要	役場前へ売上金の一部を寄附金として設置企業から受け取れる「寄附型自動販売機」を設置し、こども食堂を運営している三郷町社会福祉協議会へ寄附を行っています。また、独自デザインのオリジナルラッピングを行い、一目でこども食堂へ向けた寄附型自動販売機であることがわかるような工夫を行うとともに、購入ボタン等が本体下部にも設置されているユニバーサルデザイン機を採用し、前面に雨除けの屋根を設置することで、誰もが利用しやすい自動販売機を意識しています。	

事業名	対話支援システム機器購入	住民福祉課
事業目標	開かれた窓口の実現	
事業概要	対話支援システム「コミューン」は、付属のマイクに向かって話した言葉の聞き取りやすい音域のみクリアに音声変換を行い、専用スピーカーを通して相手に届ける事を可能とするものです。役場等の窓口へ来られる方の中には、高齢や難聴等のさまざまな理由により、職員の言葉が聞き取りづらい場合があり、職員が大きな声で伝えたりメモを使ったりするなどで、どうしても対話が円滑に進まない状況があったことから、今後は積極的にこのシステムを使用することで、少しでも多くの方に開かれた窓口を目指します。 	

事業名	地域福祉推進事業	社会福祉協議会
事業目標	誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる福祉の町づくり	
事業概要	福祉の輪を広げるため、社協だよりの発行などの媒体を使った啓発を行うとともに、小学生などへの福祉教育を行い、ボランティアの育成・支援を行っています。 また、日本赤十字社や共同募金など各種募金活動を行い、社会福祉の活動資金の必要性やその協力を依頼しています。 子どもやボランティアがともに集う「さんごうふれ愛フェスタ」の開催、また、安否確認を兼ねて、ひとり暮らし高齢者に年末にお餅を配布しています。 	

事業名	重層的支援体制整備事業	住民福祉課 社会福祉協議会
事業目標	地域共生社会を目指した支援体制の充実	
事業概要	社会福祉協議会に「福祉の総合相談窓口」を設置して相談体制の充実を図るとともに、支援体制整備として、行政各部署にエリアマネージャーを配置して連携強化を図っています。 また、支え、支え合う地域活動の推進や居場所づくりとして、小地域ネットワークやこども食堂の支援を行うとともに、多機関協働として、いろいろな機関が連携して支援にあたっています。 	

事業名	生活支援体制の推進事業	社会福祉協議会
事業目標	住民ニーズに応じた支援	
事業概要	高齢者が住み慣れた地域で暮らしていけるよう、ニーズに合ったサービスを提供するとともに、地域を含め、さまざまな機関が連携し、高齢者が社会の支援者として生きがいのある参加・活躍できる環境を図っています。 	

事業名	電子申請 LINE 連携	デジタルイノベーション課
事業目標	スマートフォン等で来庁することなく手続きを可能とする	
事業概要	電子申請システムと LINE 連携を行うことにより、電子申請システムにアクセスする際に必須であったメールアドレスの入力を不要とし、電子申請を利用しやすくしています。また、この環境を整えることで、高齢者の方、介護や子育て中の方など、来庁することが困難な方に対して、スマートフォン等で手続きすることを可能としています。 		

事業名	オンライン申請案内動画制作	保険課
事業目標	窓口に来ることが難しい被保険者の利便性の向上	
事業概要	e-古都なら（奈良電子自治体共同運営システム）の電子申請サービス（利用料無料）を活用し、被保険者証の再交付など簡易な手続きをオンライン化するにあたり、その利用方法について案内動画を作成し、ホームページ等に掲載しています。	

事業名	どこでも健康トビラ広告	保険課
事業目標	特定健診や（国保・後期）人間ドックの受診率向上	
事業概要	パンフレット及びチラシの配布、町広報誌やホームページの掲載だけでなく、駅構内に事業周知ポスターを設置するなど、普段の生活の中で、対象者の目に留まりやすく記憶に残りやすい方法を用いて周知を行います。	

事業名	カラダにごほうびプロジェクト	保険課
事業目標	特定健診や（国保）人間ドックの受診率向上	
事業概要	令和３年度（2021年度）より、特定健診や人間ドックの受診者に対してＱＵＯカード（1,000円券）を配布することにより、動機付け（インセンティブ）を行っています。今後もさらに受診率向上を促進させるため、事業内容を充実させます。	

事業名	高齢者安全運転教室	地域包括支援センター
事業目標	高齢者が安全に運転できる期間の延伸	
事業概要	近年、高齢者ドライバーによる自動車事故が増えていることから、安全に運転を続けるためにはどのようなことに気を付ければ良いか学びを深めてもらい、返納する期間を延ばし安全に運転ができるよう、座学、実技、模擬試験等を実施しています。	

事業名	成年後見人制度利用促進事業（障がい）	住民福祉課
事業目標	障がい者の権利擁護と自立生活の支援	
事業概要	知的障がい、又は精神障がい等の理由で判断能力が十分でない方が、自分らしく安心して暮らせるように、本人の権利や財産を守り、意志を尊重した生活ができるよう、成年後見人制度利用促進事業を支援しています。	

事業名	成年後見人制度利用促進事業（高齢）	地域包括支援センター
事業目標	高齢者の自分らしく安心した生活の確保	
事業概要	高齢者人口が増え、認知症の高齢者が増加しています。また、虐待によって自分の権利が奪われその人らしい生活ができなくなった方や、身寄りの無い方、支援してくれる親族がいない方なども増えてきています。その方々の権利を守り、安心した生活ができるよう、成年後見人制度の利用を促進する事業を実施するとともに、自分の備えとして考えてもらう機会づくりとしています。 	

事業名	食品ロス削減推進	住環境政策課
事業目標	食品ロス削減を通じた３５こども食堂支援	
事業概要	社会問題となっている食品ロスの削減を図り、家庭内で余っている食品（カップ麺類、レトルト食品、お菓子類など）の寄付を常時受け付ける窓口を住環境政策課に設置し、寄付いただいた食品を社会福祉協議会に提供しています。 また、食品ロスの削減は、住民一人ひとりの日々の生活の中で取り組むことが重要であることから、食品ロス削減推進の啓発物品を購入し、窓口や大和川清掃等の際に住民に配布しています。 	

事業名	開閉栓手続等の電子申請化	水道課
事業目標	手続きの電子化による住民の負担軽減・利便性の向上	
事業概要	水道の使用開始届と中止届の提出を今までは紙ベースでの提出を依頼していましたが、インターネットを利用し、手続きを行えるようにしています。	

事業名	立野汚水中継ポンプ場１Ｆトイレ供用事業（設計） 立野汚水中継ポンプ場１Ｆトイレ供用事業（工事）	下水道課
事業目標	すべての人々が自由に使用しやすいトイレ環境の整備	
事業概要	現在、立野汚水中継ポンプ場のトイレは一般に開放していますが、ほとんど知られておらず利用者はほぼない状態です。ポンプ場近くには、日本遺産である龍田古道等の観光資源がありハイキング等の観光客が多く訪れていることから、案内看板等を設置し、開庁時間中であれば、トイレ休憩施設としてすべての方が自由に利用しやすい環境の整備を行います。	

事業名	蓄電池購入	総務課
事業目標	だれもが安心して過ごせる避難所	
事業概要	在宅人工呼吸器を装着している療養者等が停電時に避難所で使用できるよう蓄電池の購入を進めます。 	

事業名	流産死産を経験された方へのグリーフケア	こども健康課
事業目標	流産死産を経験された方とその家族の心理的・社会的孤立の防止	
事業概要	「子どもとの死別」は近親者との死別でも特に悲嘆（グリーフ）が強く、その対応が難しいとされています。子どもを亡くした方の悲嘆は、１年から数年持続すると言われており、日常生活にも支障をきたすことがあります。悲嘆が長引き、慢性化すると、極度の不安、抑うつ、ＰＴＳＤなどの精神保健上の問題が生じることもあります。また、死産や流産に関しては、その命の存在を知る人が少ないため「社会に認められにくい悲嘆」とも言われており、支援につながりにくく、孤立しがちです。専門職による丁寧な支援が必要とされているため、新規事業として助産師の訪問によるグリーフケアを実施します。 	

05 人とつながる「学び・育む」プロジェクト

めざす姿

学びでは・・・

ＩＣＴを活用し、障がいのある児童・生徒や不登校の子どもにも配慮した教育が行われています。

すべての母親が、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりが進んでいます。

学校・園では・・・

児童の発達に応じた療育や教育が行われています。

バリアフリー改修されており、児童・生徒だけでなく、学校を訪れるすべての人に配慮されています。

《住民・地域の取組み》

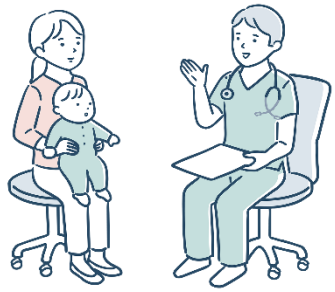
- ■子どもは次代を担う希望であり社会の宝です。子どもや子育て家庭をみんなで支えましょう。
- ■子育て家庭では、子育てに関して不安なことや悩みごとがあれば、抱え込まずに相談しましょう。
- ■子どもの地域への愛着や誇りを育みましょう。

具体的な取組み内容

事業名	巡回支援事業	こども未来課
事業目標	子どもの療育支援	
事業概要	実際に子どもが生活する園・学校等へ作業療法士を派遣し、園・学校生活等の観察を行い、発達が気になる子どもの生活の場での対応、保育士、教職員及び保護者等の関わり方や環境調整について専門性の高い見立てをもとに検討・支援を行っています。 また、保育士、教職員及び保護者等に対しての相談、支援方法の提案及び指導等を行っています。	

事業名	療育支援事業	こども未来課
事業目標	子どもの療育支援	
事業概要	未就学児のうち、発達が気になるものの医療機関の受診などの療育支援を受けていない子どもを対象に、療育教室を開催し、療育支援を体験できる場の提供及び作業療法士による支援方法の提供等を行っています。また、家庭訪問による療育支援の提供を行っています。 さらに、所属園との情報交換のためのカンファレンスの実施、町の心理士相談や専門機関の受診のきっかけになるよう関係課及び関係機関との連携に努めています。	

事業名	乳幼児健診の充実	こども健康課
事業目標	子どもが安心して成長できる	
事業概要	子どもの発達に関する専門職である作業療法士が、１歳６か月児健診、３歳児健診、５歳児健診において、子どもの発達レベルや保護者のニーズを評価することで、発達に偏りのある子どもの早期発見、保護者の子どもへの関わり方などの相談を行っています。 また、子どもの発達を伸ばすためには、体を動かすことや子どもの存在を認めることが大事であるという「子育ての土台」となる講義を、作業療法士が保護者にすることで、保護者が自分の子育てを見直す場としています。疾病や障がいの早期発見という目標のみならず、虐待予防にもつなげています。	



事業名	療育相談事業	こども健康課
事業目標	子どもが安心して成長できる	
事業概要	子どもの発達の遅れや偏りは、集団生活の困難さから、幼稚園・保育園等で発見されるケースが多くなっています。ただ、発達の偏りは保護者には理解しがたく、特性を理解するためには、客観的な情報が必要となることから、発達検査を実施し、偏りを視覚化して保護者に説明することで保護者の理解を促しています。 保護者に子どもへの適切な関わり方を伝え、子どもが安心して過ごすことができる環境を整えるため、専門知識を持つ心理士が丁寧に時間をかけ保護者に検査結果を伝えています。検査結果は保護者にとって辛く、厳しいものとなることも大いにあり、心理士は保護者の気持ちにも配慮しながら説明を行っています。	

事業名	K式発達検査導入	こども健康課
事業目標	子どもの健やかな成長に向けた支援	
事業概要	令和５年（2023 年）７月から導入し、心理士が実施し、保護者への結果説明を行っています。「K式発達検査」は子どもの発達を「姿勢・運動」「認知・適応」「言語・社会」の３つの領域から発達指数と発達年齢を算出するもので、これらの結果を組み合わせ、発達の偏りや進み具合を継続的に評価することができるものです。 これまでの発達相談では、保護者からの聞き取りにおいて評価していましたが、検査を導入し、結果を視覚化することで保護者の発達特性の理解につなげています。	

事業名	特別支援教育支援員の配置	教育総務課
事業目標	すべての児童生徒が共に学び共に育つことができる学習環境の整備	
事業概要	特別な支援を必要とする児童生徒が年々増加するなか、学習上の特別な支援を必要としないため特別支援学級の入級の対象とはならないものの、学習場面以外の学校生活上、支援を必要とする児童生徒が年々増えています。 そうした児童・生徒に対してきめ細かなケアを行い、三郷町の教育の基本理念でもある、すべての児童生徒が「ともにまなび　ともにおもい　ともにそだつ」ことができる環境を整備できるよう、令和４年度（2022 年度）より特別支援教育支援員を町立小中学校に新たに配置しています。 	

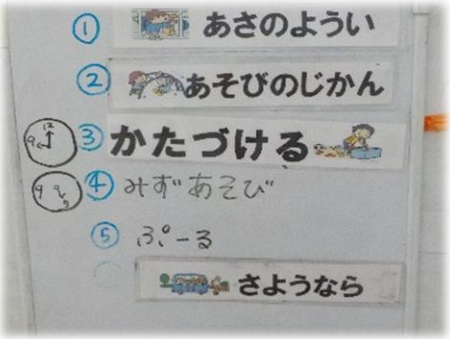
事業名	小中一貫コミュニティ・スクール事業	教育総務課
事業目標	地域全体による子どもたちの育ちへの関わり	
事業概要	学校と地域の方々（保護者・地域住民）が目標を共有し、ともに知恵を出し合い、協働しながら、一体となって地域の子どもたちを育んでいくことで、義務教育９年間の子どもの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」を進めています。具体的な取組みとして、「ひまわり畑プロジェクト」や授業の中で「昔あそび」などを実施し、活動を通して地域の方々と子どもたちとのつながりを深めています。 今後も各校学校運営協議会からの意見を集約し、三郷町小中一貫コミュニティ・スクール運営委員会の中で学校・家庭・地域・行政をつなぐ取組みを検討します。 	

事業名	ＳＤＧｓフェス	教育総務課
事業目標	学校への理解及び学校づくりへの参画やＳＤＧｓの推進の機運の醸成	
事業概要	平成 30 年（2018 年）のこども議会で「ＳＤＧｓ未来都市宣言」を行い、未来を担う子どもたちに対して、ＳＤＧｓのことをできる限り早い年齢から意識し、考えていけるような教育活動が求められています。 行事等を通じて、ＳＤＧｓについて考える機会を積極的に提供し、「ＳＤＧｓ」というテーマを通じて子どもたちが意見交流を行う機会としています。 また、子どもたちのこうした取組みを「ナイトＳＤＧｓフェス」や広報活動を通じて地域住民にも広め、地域全体のＳＤＧｓの機運を高めています。 	

事業名	不登校対策先進地及び先進校視察	教育総務課
事業目標	三郷町型の不登校支援体制の構築	
事業概要	ＩＣＴの活用やＮＰＯ等外部団体との連携、フリースクールの設置等も視野に入れた体制を構築していくためにも、不登校対策の先進地を視察し、取組み等を参考にしながら、三郷型不登校支援体制の構築を目指します。	

事業名	子ども人権学習支援事業	教育総務課・生涯学習課
事業目標	児童生徒の放課後における居場所づくり	
事業概要	少子化や核家族化の進行、就労形態の多様化及び家庭や地域の子育て意識の低下など、子どもを取り巻く環境の変化を踏まえ、放課後の居場所づくりや子どものさまざまな活動を支援する事業を実施し、地域ぐるみの教育活動の推進を図ります。 	

事業名	みんなイキイキ保育園	西部保育園
事業目標	すべての子どもがイキイキと活動できる保育	
事業概要	より視覚支援を活用できる環境を整えるため、ホワイトボードを活用し、すべての子どもに分かりやすい保育を行い、インクルーシブ保育を実践していきます。 保育園では、一人ひとりがイキイキと元気に遊ぶ子どもを育て、主体性を育むことを目指しています。そのためには子どもたちが、自分で考え、選び、決める経験を多く重ねることができる環境づくりが必要となります。そのような環境の一つとして、よりすべての子どもにわかりやすい保育を行うことができるようホワイトボードを導入しています。 	

事業名	みんなともだち大作戦！	南畑幼稚園
事業目標	だれにでもわかりやすい保育	
事業概要	より視覚支援を活用できる環境を整えるため、ホワイトボードを活用し、すべての子どもにわかりやすい「インクルーシブ保育」を実践しています。 具体的には、視覚支援タイマーの活用により時間を見える化し、どの子にも時間の経過をわかりやすく知らせたり、視覚支援カードを個々の特性に合わせて作成し、活用することで、どの子も困り感がなく楽しい園生活を送ることができるようにしています。  	

06 人とつながる「活躍する・参画する」プロジェクト

めざす姿

職場では・・・

自宅では・・・

地域では・・・

《住民・地域の取組み》

- ■町政に関心をもち、まちづくりに参加しましょう。
- ■情報格差（デジタル・デバイド）が生じないように、困っている人がいれば手助けしましょう。
- ■企業や事業所では、障がいのある人と一緒に働くことへの理解を深め、障がいのある人が働く場所を選ぶ必要がない（障がいのある人が必要な配慮が受けられる）環境づくりを進めましょう。

具体的な取組み内容

事業名	FSS35 サテライトオフィス受付委託業務	まちづくり推進課
事業目標	障がいのある人の就労支援	
事業概要	FSS35 キャンパス内の FSS35 サテライトオフィスについて、受付業務を障がいのある人の就労支援として委託を行っています。 障がいのある人が、社会生活を送る上で最も重要な生活の一部である「仕事」に就くための支援を提供することで、就労を通じて社会に貢献できる機会が増え、やりがいの醸成にもつながるため、その一助として受付業務の委託を行っています。	

事業名	障がい者就労支援業務	住民福祉課
事業目標	障がいのある人の活躍の場の創出（地域共生社会の実現）	
事業概要	障がいのある方への就労支援は、全世代・全員活躍「生涯活躍のまちづくり」のおける重要事項であるため、「障害者優先調達推進法」に基づき、町施設の受付業務や清掃を、町内の障がい者施設に委託することにより、障がいのある方が就労し、活躍できる場を作り、地域共生社会の実現を目指しています。	

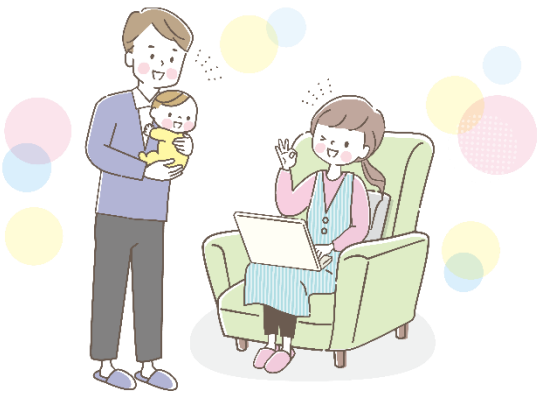
事業名	がん患者医療用補整具購入費助成	長寿健康課
事業目標	がん患者の治療と就労、社会参加等との両立の支援	
事業概要	近年、医療技術の進歩により、がん治療をしながら社会生活を送ることができるようになってきています。アピアランスケア（医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化を補完し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケア）の方法の一つとして、抗がん剤や手術などのがん治療をしている方が、外見が変化しても自分らしく生活できるように支援していきます。	

事業名	高齢者スマートフォン購入助成	長寿健康課
事業目標	高齢者の社会参加への支援	
事業概要	高齢者がスマートフォンに挑戦するきっかけをつくり、デジタル化が進む社会に誰ひとり取り残さないように、デジタルデバイドの解消を目的にスマートフォン購入費用を助成しています。 なお、助成額については、よりスマートフォンを購入しやすくするため、全額助成（上限あり）としています。 	

事業名	シニアのためのスマホ教室・スマホサークル	地域包括支援センター
事業目標	高齢のスマホ難民を救済しデジタル化に取り残されない高齢者の育成	
事業概要	コロナ禍で外出することが難しくなり孤立しがちな高齢者に対し、スマホを利用することで外出せずに交流することができたり、アプリ等を利用することで認知症予防、介護予防ができる方法を取得できるよう教室を開催しています。 また、教室だけで終了してしまうと、またスマホ難民に戻る恐れがあることから、その後のフォローアップとしてスマホサークルを開催しています。 	

事業名	スマホメンター養成講座	デジタルイノベーション課
事業目標	デジタルデバイドの解消、地域における自主的な取組みの根付き	
事業概要	デジタル化の進展に伴い、デジタルの恩恵を受けられる世代格差ができており、デジタルデバイドを解消する必要があるため、行政からの支援だけでなく、自主的な取組みが地域に根付くよう、メンターを育成します。地域の方々がそれぞれ教えあい、自主的に成長できる仕組みをつくるため、アドバイザーとして活動できる方を対象にしたスマホ教室（スマホメンター養成講座）を実施します。	

事業名	議会インターネット配信	議会事務局
事業目標	開かれた議会、多様な傍聴機会の確保	
事業概要	令和４年（2022 年）の第４回（12 月）定例会において「三郷町議会の改革・活性化の推進に関する決議」が可決され、議場へ出向くことなく、さまざまな端末に映像として配信することで議会活動を直感的にもっと身近に感じてもらうことを目指し、令和５年（2023 年）の第３回（９月）定例会より、ライブ配信を開始しています。 幅広い年齢層に気軽に観てもらえる配信を行うため、YouTube を使った配信を行っています。	



07 人とつながる「集う・憩う」プロジェクト

めざす姿

地域では・・・

障がいの有無や年齢に関わらず、
地域の集まる場で交流し、
障がいへの理解が進んでいます。

公園では・・・

インクルーシブ公園の整備が進み、
障がいの有無に関わらず、
子どもたちが一緒に遊んでいます。

FSS35 キャンパスでは・・・

さまざまな人が集まる
三郷町の交流拠点となっています。

子育て世帯の情報交換
の場となっています。

子どもたちは、障がいの有無に
関わらず一緒に遊んでいます。

こども食堂では・・・

地域の食材が活用され、食品ロスの
解消につながっています。

《住民・地域の取組み》

- ■地域の行事や町のイベントに参加し、いろいろな人と交流しましょう。
- ■公園は、子どもから高齢者までともに憩い楽しむことができる場にしましょう。
- ■ＦＳＳ３５キャンパスを活用しましょう。

具体的な取組み内容

事業名	FSS35 キャンパスインクルーシブ遊具設置事業	まちづくり推進課
事業目標	子ども達が遊びながらインクルーシブを感じてもらうこと	
事業概要	FSS35 キャンパスは、全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の核となるエリアとして、官民連携して整備を進めており、インクルーシブなまちづくりを目指しています。子ども達にも多様性を理解、尊重してもらえるような取組みとして、インクルーシブのブランコ、シーソーをそれぞれ１基、設置しています。 子ども達には、勉強としてインクルーシブを学ぶのではなく、一緒に遊びながらインクルーシブを感じてもらえるよう、遊具の選定等については、実際にインクルーシブ遊具を見学し、子ども達が遊んでいる姿も見ながら検討を行いました。 	

事業名	FSS35 スポーツアリーナ　スロープ設置事業	まちづくり推進課
事業目標	障がい等の有無に関わらず、誰もが利用しやすい環境整備	
事業概要	FSS35 スポーツアリーナは、もともとスロープが無く、利用しづらい環境となっており、災害時の避難所にもなることから、障がいの有無に関係なく、すべての人に幅広く、不自由なく利用してもらえるよう、スロープを設置しています。 具体的に、外からアリーナに入る際のスロープと、玄関口から体育館内に入る際のスロープの２つを設置し、車いす等の利用者目線に立った整備を行っています。 	

事業名	FSS35 キャンパス車いすバスケ体験教室	まちづくり推進課
事業目標	子どもたちへの多様性の理解の促進、障がい者スポーツの普及促進	
事業概要	FSS35 キャンパス内には、FSS35 スポーツパークや FSS35 スポーツアリーナがあり、バスケットコート等を整備しています。その中で、障がい者スポーツである車いすバスケを体験することで、多様性を理解し、チームワークとコミュニケーションの強化にもつながり、障がい者スポーツの魅力の発見につなげています。また、スポーツを通してインクルーシブな観点を養えるようイベント内容等も工夫します。 	

事業名	木育推進型インクルーシブ拠点整備事業	まちづくり推進課
事業目標	子どもの居場所であり、多世代間の交流が行えるインクルーシブな拠点の整備	
事業概要	FSS35 キャンパス７号館の１階を無料で入れるライブラリーカフェにし、ショップやギャラリーを整備します。ライブラリーカフェには、約 2,000 冊の児童書等を置き、カフェや Wi-Fi を完備するとともに、入口近くにギャラリーを整備し、障がい者アート等を展示し、障がい者福祉への認知・アートを通して文化の発信を進めます。２階は、交流体験型ミュージアムとして、「木育」をテーマに０歳から 100 歳までのすべての人が楽しめる施設とします。 また、高齢者等を対象にした地域ボランティアを募集し、おもちゃを通じて子どもたちと触れ合うことで元気をもらい、認知症予防につなげるとともに、障がいのある人も就労を通して自分ができる仕事やスキルを増やし、就労へのモチベーションや、やりがいを醸成します。来館者だけでなく、施設運営側の高齢者や障がいのある人にも良い影響を与える施設とします。 	

事業名	FSS35 スポーツパーク室内練習場改修工事	生涯学習課
事業目標	すべての人がさまざまなスポーツを楽しむことができる施設の整備	
事業概要	奈良学園大学野球部が使用していた室内練習場を、ボッチャをはじめとした障がい者スポーツ、野球、ソフトボール、サッカー等のさまざまな競技が取り組める施設に整備するものです。インクルーシブを主眼に置き、障がいのある方もない方もスポーツに親しんでもらえるような施設整備を目指します。	

事業名	FSS35 スポーツパーク屋内トイレ整備工事	生涯学習課
事業目標	利用者が快適に施設内でトイレを利用できるよう整備	
事業概要	施設内にトイレが無く、これまでは離れた位置の駐車場奥のトイレを利用していたことから、インクルーシブを主眼に置き、障がいのある方はもとより、小さなお子さんをお連れの方など、さまざまな用途に応じて使い勝手の良い多目的トイレ及び男性・女性用トイレを整備するものです。	

事業名	３５こども食堂	社会福祉協議会
事業目標	子どもの交流・遊び・食事の場などの居場所づくり	
事業概要	こども食堂は地域の子どもに対して、食事を提供することよる食育の場や遊びなどにより、子ども同士の仲間づくりや子どもを孤立させないことも目的にしています。こども食堂の食材は地域の方からの寄附等で運営しているとともに、「３５フードドライブ」でいただいた食品を、年に数回、希望される子育て世帯へ「フードパントリー」で配布しています。 また、こども食堂の運営に対しては、地域のいろいろな人の理解と協力が必要であることから、地域の高齢者や障がいのある人などにも参加してもらい、地域活性化を図っています。現在は毎月第３土曜に福祉保健センターで開設していますが、今後は地域での開設も視野に入れ、活動拠点を広げていきます。	

事業名	障がい者福祉事業	社会福祉協議会
事業目標	障がいのある人に対する理解の促進	
事業概要	就学前の発達障がいを持つ子どもに対して、療育教室を開催しています。 また、手話通訳・要約筆記・点訳通訳の養成講座を開催するとともに、養成した手話通訳者・要約筆記者・点訳通訳者を派遣しています。 さらに、在宅の障がいのある人とその家族の交流を図る事業を実施しています。 	

事業名	介護予防・日常生活支援総合事業	社会福祉協議会
事業目標	高齢者を含め誰もが参加できる居場所づくり	
事業概要	認知症予防事業として、「スッキリ教室」を開催しています。また、定期的に地域の通いの場を巡回し、高齢者の健康長寿・介護予防の促進を図っています。その他、生活機能の維持向上のため、運動器の機能向上事業、口腔機能向上事業、ヘルスケア事業を実施しています。 	

事業名	認知症カフェ～しゃべり場～	地域包括支援センター
事業目標	認知症の人とその家族の居場所づくり	
事業概要	認知症の人とその家族の閉じこもりを防止するため、毎月第１月曜日（13：30～）、施設内で地域の人たちの集いの場として「いきいき百歳体操」を行っています。 また、体操後には入居者の方も交えて皆でお茶を飲みながら、雑談やレクリエーションを行っています。 	

事業名	チームオレンジ	地域包括支援センター
事業目標	認知症になっても安心して暮らせるまちづくり	
事業概要	自治会単位で設置されている「集いの場」に対して、認知症という病気を知ってもらい、認知症になっても継続して参加できるよう、周囲がさりげなく見守る体制をつくり、参加者の安心感につなげています。 また、チーム員はオレンジリングやオレンジバッチを身に付け、活動に対して意欲的に取り組んでいます。 	

事業名	ヤングシニア大学事業	地域包括支援センター
事業目標	健康づくりと生きがい感の充実による健康寿命を延伸、元気な高齢者を目指す	
事業概要	我が国の平均寿命は、男性が 81.41 歳、女性が 87.45 歳となっている一方で、健康寿命は男性が 72.68 歳、女性が 75.38 歳となっており、男性では約９年、女性では約 12 年の差があります。健康寿命の延伸を目指すためには、この平均寿命と健康寿命の差の縮小が重要であり、身体活動（運動、生活活動）を含めてフレイルに気を付け、心身ともに自立を促進していくことが重要となります。 フレイルを予防し、自分は今どのような活動をしなければいけないのか、いつまでも健康で過ごすためにはどのようにすれば良いのかを実技と座学で考えてもらう機会としています。 	

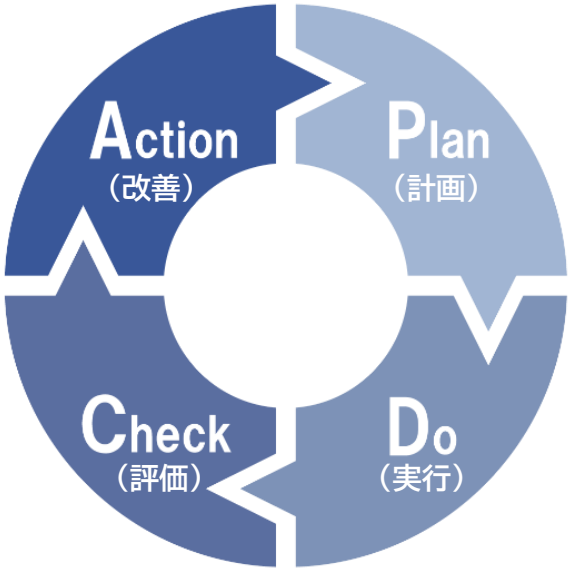
事業名	観光用トイレ整備事業	ものづくり振興課
事業目標	インクルーシブな観光トイレ整備	
事業概要	日本遺産事業などで観光ルートが設定され、町内を周遊する観光客が増えており、合わせてルート上にトイレが必要となっています。既設のトイレにおいて整備されている箇所もありますが、場所によっては洋式トイレがない場合や、障がいのある方や高齢者が使いやすいとはいえない状況の場所もあります。 既設のトイレについては、洋式化にする等の改修を進めていくほか、観光スポットには外国人や障がいのある方、高齢者も利用しやすいインクルーシブな観光トイレを整備していきます。	

08 計画の推進に向けて

本計画を総合的かつ効果的に推進していくため、多様な主体による取組みや交流・連携を深め、町全体が一体となって取り組んでいきます。

また、本計画のめざす姿である「人とつながるまち」の実現に向けては、三郷町で生活する住民一人ひとりが中心となって進めていくものであることから、一人でも多くの住民に計画への理解と協力が得られるよう、広報紙やホームページ、ＳＮＳの活用など、さまざまな場や機会を通じて計画の周知を図ります。

また、事業の実施状況の把握などにより定期的に進捗状況を確認するとともに、客観的な評価を行い改善していく、ＰＤＣＡサイクル（計画・実行・評価・改善）のもとに計画を進めます。



09 資 料

1　三郷町のすがた

（1）人口

本町の世帯数は、緩やかな増加傾向にあり、令和５年（2023 年）は 10,673 世帯となっているのに対し、総人口は平成 29 年（2017 年）以降、緩やかな減少傾向にあります。

令和５年（2023 年）の総人口は 22,529 人で、平成 29 年（2017 年）の 23,126 人に比べ 597 人減少しています。

世帯数の増加に対し人口が減少していることから、一世帯あたりの平均世帯人数は年々減少しており、令和５年（2023 年）には 2.11 人と世帯の小規模化が進んでいます。

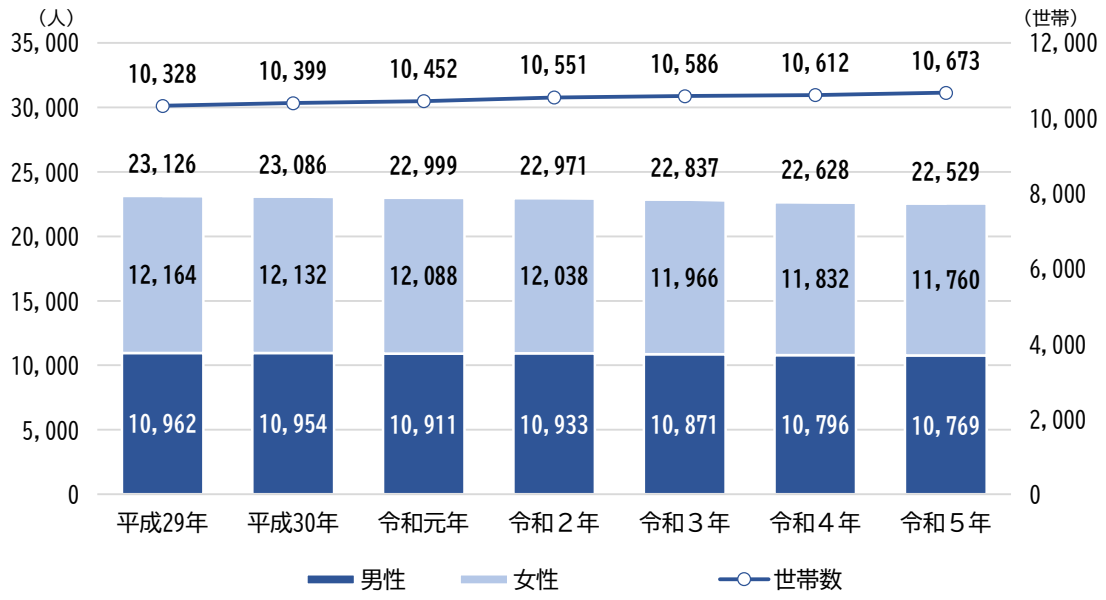
【人口・世帯数の推移】

単位：人、％

		平成29年（2017）	平成30年（2018）	令和元年（2019）	令和２年（2020）	令和３年（2021）	令和４年（2022）	令和５年（2023）
総人口		23,126	23,086	22,999	22,971	22,837	22,628	22,529
男性		10,962	10,954	10,911	10,933	10,871	10,796	10,769
		47.4	47.4	47.4	47.6	47.6	47.7	47.8
女性		12,164	12,132	12,088	12,038	11,966	11,832	11,760
		52.6	52.6	52.6	52.4	52.4	52.3	52.2
世帯数		10,328	10,399	10,452	10,551	10,586	10,612	10,673
平均世帯人数		2.24	2.22	2.20	2.18	2.16	2.13	2.11

※構成比は小数点以下第２位を四捨五入して表示しているため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。

資料：住民基本台帳（各年４月１日現在）



（２）年齢３区分別人口の推移

年齢３区分別に人口の推移をみると、年少人口（0～14 歳）の割合は年々減少しており、令和５年（2023 年）には 11.8%と、平成 29 年（2017 年）の 12.5%に比べて 0.7 ポイント減少しています。

一方、生産年齢人口（15～64 歳）と高齢者人口（65 歳以上）の割合は平成 29 年（2017 年）以降、横ばい傾向となっており、高齢化率は約３割となっています。

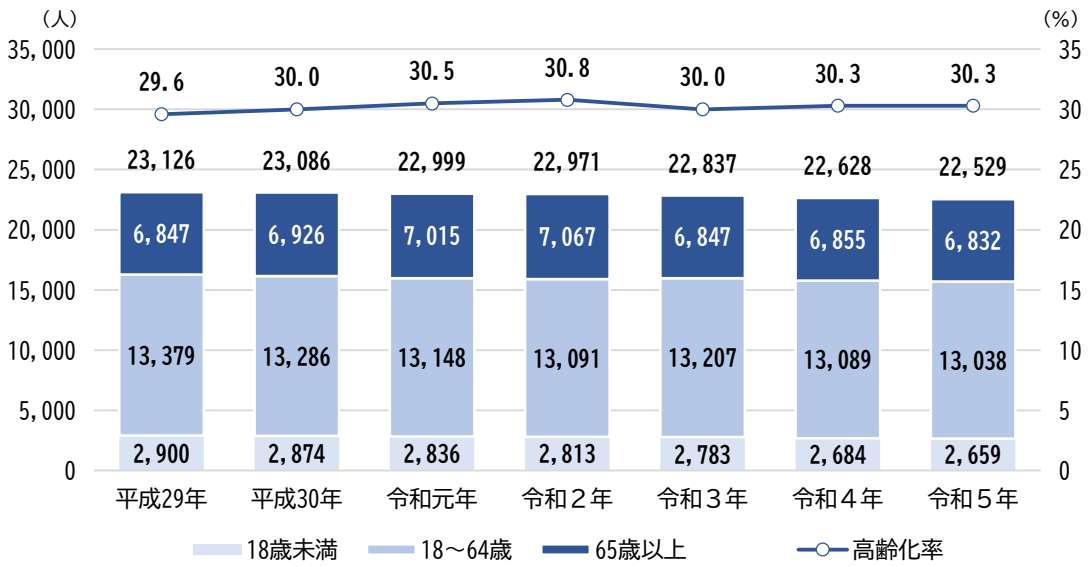
【年齢３区分別人口の推移】

単位：人、%

	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和２年 (2020)	令和３年 (2021)	令和４年 (2022)	令和５年 (2023)
総人口	23,126	23,086	22,999	22,971	22,837	22,628	22,529
年少人口 (0～14 歳)	2,900	2,874	2,836	2,813	2,783	2,684	2,659
	12.5	12.4	12.3	12.2	12.2	11.9	11.8
生産年齢人口 (15～64 歳)	13,379	13,286	13,148	13,091	13,207	13,089	13,038
	57.9	57.6	57.2	57.0	57.8	57.8	57.9
高齢者人口 (65 歳以上)	6,847	6,926	7,015	7,067	6,847	6,855	6,832
	29.6	30.0	30.5	30.8	30.0	30.3	30.3

※構成比は小数点以下第２位を四捨五入して表示しているため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。

資料：住民基本台帳（各年４月１日現在）



2　取組み事業一覧索引

人とつながる「暮らし」プロジェクト

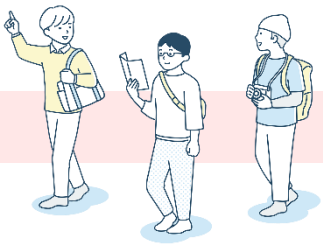
オストメイトトイレ購入 ▶▶ 6
役場庁舎入口バリアフリー化等事業 ▶▶ 6
ごみ出しサポート ▶▶ 7
寄附型自動販売機設置事業 ▶▶ 7
対話支援システム機器購入 ▶▶ 8
地域福祉推進事業 ▶▶ 8
重層的支援体制整備事業 ▶▶ 9
生活支援体制の推進事業 ▶▶ 9
電子申請LINE連携 ▶▶ 10
オンライン申請案内動画制作 ▶▶ 10
どこでも健康トビラ広告 ▶▶ 10
カラダにごほうびプロジェクト ▶▶ 11
高齢者安全運転教室 ▶▶ 11
成年後見人制度利用促進事業（障がい） ▶▶ 11
成年後見人制度利用促進事業（高齢） ▶▶ 12
食品ロス削減推進 ▶▶ 12
開閉栓手続等の電子申請化 ▶▶ 13
立野汚水中継ポンプ場１Ｆトイレ供用事業(設計) ▶▶ 13
立野汚水中継ポンプ場１Ｆトイレ供用事業(工事) ▶▶ 13
蓄電池購入 ▶▶ 14
流産死産を経験された方へのグリーフケア ▶▶ 14

人とつながる「学び・育む」プロジェクト

巡回支援事業 ▶▶ 16
療育支援事業 ▶▶ 16
乳幼児健診の充実 ▶▶ 16
療育相談事業 ▶▶ 17
Ｋ式発達検査導入 ▶▶ 17
特別支援教育支援員の配置 ▶▶ 17
小中一貫コミュニティ・スクール事業 ▶▶ 18
ＳＤＧｓフェス ▶▶ 18
不登校対策先進地及び先進校視察 ▶▶ 19
子ども人権学習支援事業 ▶▶ 19
みんなイキイキ保育園 ▶▶ 19
みんなともだち大作戦！ ▶▶ 20

人とつながる「活躍する・参画する」プロジェクト

FSS35サテライトオフィス受付委託業務 ▶▶ 22
障がい者就労支援業務 ▶▶ 22
がん患者医療用補整具購入費助成 ▶▶ 22
高齢者スマートフォン購入助成 ▶▶ 23
シニアのためのスマホ教室・スマホサークル ▶▶ 23
スマホメンター養成講座 ▶▶ 24
議会インターネット配信 ▶▶ 24



人とつながる「集う・憩う」プロジェクト

FSS35キャンパスインクルーシブ遊具設置事業 ▶▶ 26
FSS35スポーツアリーナ　スロープ設置事業 ▶▶ 26
FSS35キャンパス車いすバスケ体験教室 ▶▶ 27
木育推進型インクルーシブ拠点整備事業 ▶▶ 27
FSS35スポーツパーク室内練習場改修工事 ▶▶ 28
FSS35スポーツパーク屋内トイレ整備工事 ▶▶ 28
３５こども食堂 ▶▶ 28
障がい者福祉事業 ▶▶ 29
介護予防・日常生活支援総合事業 ▶▶ 29
認知症カフェ～しゃべり場～ ▶▶ 30
チームオレンジ ▶▶ 30
ヤングシニア大学事業 ▶▶ 31
観光用トイレ整備事業 ▶▶ 31

三郷町役場住民福祉部住民福祉課

〒636-8535　生駒郡三郷町勢野西１丁目１番１号
TEL 0745-73-2101
FAX 0745-73-6334